

# 令和3年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小4 義4）

## ■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。（小・義務教育学校4年生については令和4年度の調査から把握することができます。）
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

## ■学力のレベル

	調査する レベルの 範囲	市		県	
		レベル	平均正答率 (%)	レベル	平均正答率 (%)
【令和3年度】小4国語	1～7	6-A	54.6	6-A	54.7
【令和2年度】小4国語	1～7	6-C	62.7	6-C	61.6
【令和3年度】小4算数	1～7	5-B	66.2	5-B	66.6
【令和2年度】小4算数	1～7	5-C	61.6	5-C	60.4

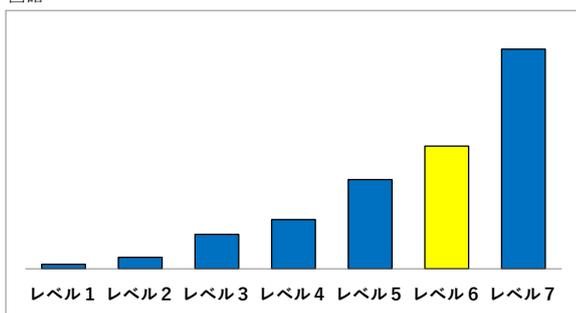
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が6-A、算数が5-Bで、国語の方が4段階高い。

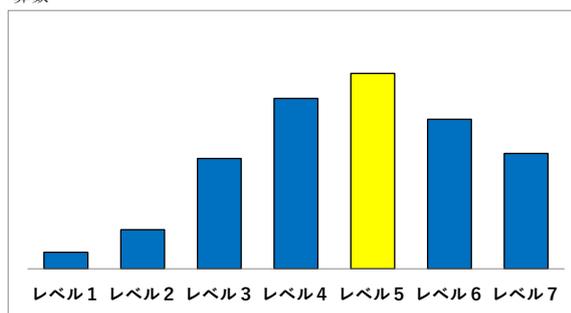
## ■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数



- 国語では、レベル7の児童の割合が最も大きい。
- 算数では、レベル4の児童の割合が大きい。国語と比べてレベル7の児童の割合が小さい。

■カテゴリー別正答率(%)

+1. 1ポイント以上

-1. 1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小4	66.7	63.6	29.1	38.8	65.8	33.4	57.5	54.9	13.1
県 小4	66.2	65.5	29.0	39.0	66.0	33.4	58.1	54.4	14.1
県 小4との比較(±ポイント)	0.5	-1.9	0.1	-0.2	-0.2	0.0	-0.6	0.5	-1.0

- 教科の領域等の「情報の扱い方、我が国の言語文化」で1.9ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「話すこと・聞くこと、書くこと」「読むこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	測定	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小4	68.4	62.1	68.1	64.0	68.5	51.0	63.2	72.0	20.2
県 小4	68.6	62.6	69.4	63.8	68.9	51.2	63.5	72.5	20.9
県 小4との比較(±ポイント)	-0.2	-0.5	-1.3	0.2	-0.4	-0.2	-0.3	-0.5	-0.7

- 教科の領域等の「測定」で1.3ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「図形」「データの活用」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■アクティブ・ラーニングの実施、学習方略、非認知能力

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感
【令和3年度】市 小4	3.9	3.4	3.5	3.5	3.1	3.7	3.9	3.0
【令和3年度】県 小4	4.0	3.5	3.5	3.5	3.1	3.8	3.9	3.0
【令和3年度】県 小4との比較	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1	0.0	0.0

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階(1～5)で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動(学習方法や態度)
  - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
  - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
  - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
  - 人的リソース方略：友人を利用して学習を進める活動
  - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
  - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
  - 自己効力感：自分はそれが実行できるという期待や自信

- 「アクティブ・ラーニングの実施」の数値は県とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は県とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値は他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の「自己効力感」の数値は県と同じであるものの、他の項目と比べて低い。

# 令和3年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小5 義5）

## ■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

## ■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市			県			
		レベル	伸び	伸びた児童の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和3年度】小5国語	2～8	6-A	2	67.1	57.6	6-A	2	56.1
【令和2年度】小4国語	1～7	6-C			62.7	6-C		61.6
【令和3年度】小5算数	2～8	6-C	3	81.1	59.6	6-C	3	58.9
【令和2年度】小4算数	1～7	5-C			61.6	5-C		60.4

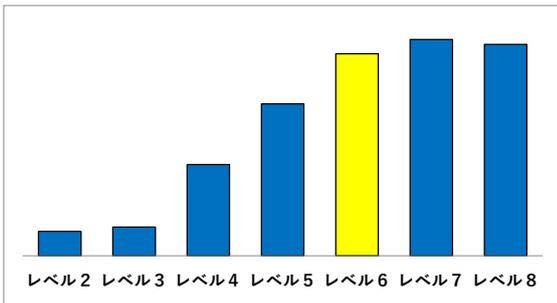
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が6-Cから6-Aに2段階、算数が5-Cから6-Cに3段階あがっている。
- 国語は67.1%、算数は81.1%の児童で学力が伸びている。

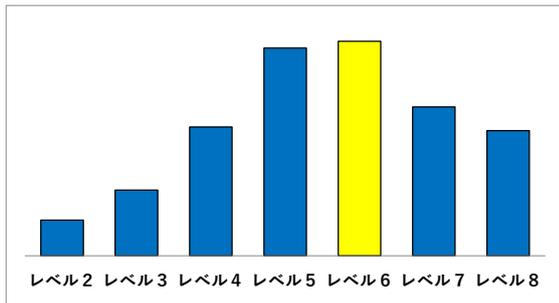
## ■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数

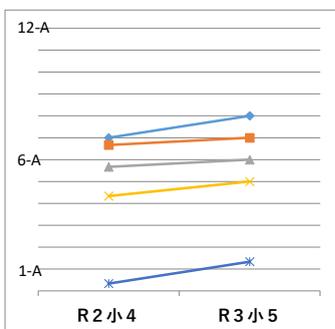


- 国語では、レベル7・レベル8の児童の割合が大きい。
- 算数では、レベル5の児童の割合が大きい。国語と比べてレベル7・レベル8の児童の割合が小さい。

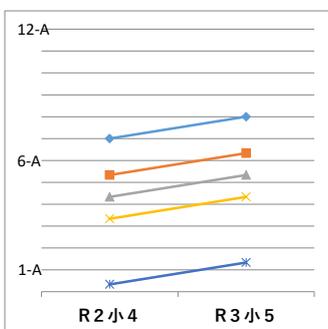
## ■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値 (最も学力が高い児童が属する学力のレベル)
- : 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童が属する学力のレベル)
- ▲ : 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童が属する学力のレベル)
- × : 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童が属する学力のレベル)
- \* : 最小値 (最も学力が低い児童が属する学力のレベル)

国語



算数



- 国語では、上位層、中位層、下位層のいずれの層も学力が伸びているものの、中位層の傾きが他の層と比べて緩やかである。
- 算数では、上位層、中位層、下位層のいずれの層も同じ傾きで学力が伸びている。

■カテゴリー別正答率 (%)

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小5	60.7	62.2	38.6	59.5	61.1	53.0	56.8	61.4	26.4
県 小5	59.8	61.2	36.2	57.4	60.2	50.8	56.2	58.7	24.2
県 小5との比較 (±ポイント)	0.9	1.0	2.4	2.1	0.9	2.2	0.6	2.7	2.2

- 教科の領域等の「話すこと・聞くこと、書くこと」「読むこと」等の5項目で2ポイント以上、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「話すこと・聞くこと、書くこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小5	60.8	59.6	59.6	57.3	63.9	48.6	57.1	65.0	12.1
県 小5	60.4	58.8	58.5	56.3	63.0	48.3	56.0	64.5	12.2
県 小5との比較 (±ポイント)	0.4	0.8	1.1	1.0	0.9	0.3	1.1	0.5	-0.1

- 問題形式の「変化と関係」、問題形式の「選択式」で1.1ポイント、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「データの活用」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■アクティブ・ラーニングの実施、学習方略、非認知能力

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	勤勉性
【令和3年度】市 小5	3.9	3.2	3.4	3.3	3.0	3.6	3.8	3.0
【令和2年度】市 小4	4.0	3.4	3.4	3.4	3.0	3.7	3.9	3.2
【令和2年度】市 小4との比較	-0.1	-0.2	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	-0.2
【令和3年度】県 小5	3.9	3.3	3.4	3.3	3.0	3.7	3.9	3.0
【令和3年度】県 小5との比較	0.0	-0.1	0.0	0.0	0.0	-0.1	-0.1	0.0

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
  - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
  - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
  - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
  - 人的リソース方略：友人を利用して学習を進める活動
  - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
  - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
  - 勤勉性：やるべきことをきちんとやることができる力

- 「アクティブ・ラーニングの実施」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値は他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の「勤勉性」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、他の項目と比べて低い。

# 令和3年度 とっとり学力・学習状況調査 【鳥取市】 調査結果概要（小6義6）

## ■本調査の特長

- ◇ 学力の伸びを把握することができます。
- ◇ 学力の伸びに関わる学習方略や非認知能力を把握することができます。

## ■学力のレベルと伸び

	調査するレベルの範囲	市			県			
		レベル	伸び	伸びた児童の割合(%)	平均正答率(%)	レベル	伸び	平均正答率(%)
【令和3年度】小6国語	3～9	7-B	1	63.2	59.1	7-B	1	59.0
【令和2年度】小5国語	2～8	7-C			64.1	7-C		63.4
【令和3年度】小6算数	3～9	6-A	3	82.6	58.9	7-C	4	59.4
【令和2年度】小5算数	2～8	5-A			60.0	5-A		60.5

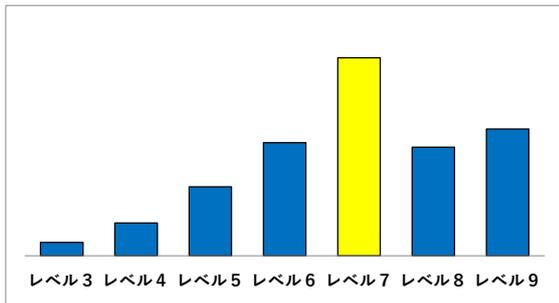
- ◇ 正答率が高いか低いかではなく、どの程度難しい問題に正答できたかで学力のレベルを判断しています。
- ◇ 学力のレベルは1から12まであり、1つのレベルはさらに3層に分かれています（1-Cから12-Aまで）。
- ◇ 学力のレベルがあがるほど難しい問題を解く力があります。

- 学力のレベルは、国語が7-Cから7-Bに1段階、算数が5-Aから6-Aに3段階あがっている。
- 国語は63.2%、算数は82.6%の児童で学力が伸びている。

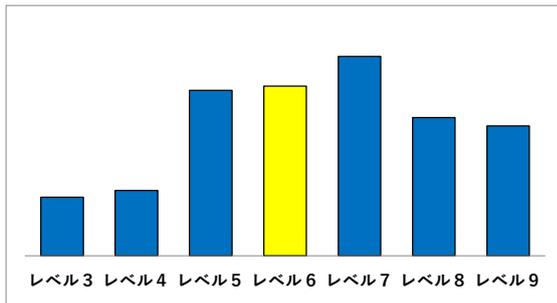
## ■学力のレベルの状況

■ : 市平均

国語



算数

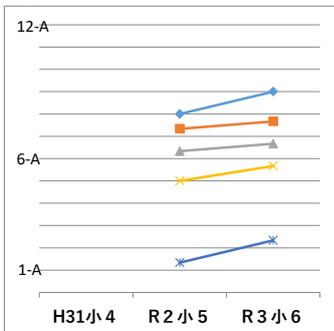


- 国語・算数ともに、レベル7とレベル9の児童の割合と比べてレベル8の児童の割合が小さい。
- 算数では、レベル5の児童の割合が大きい。

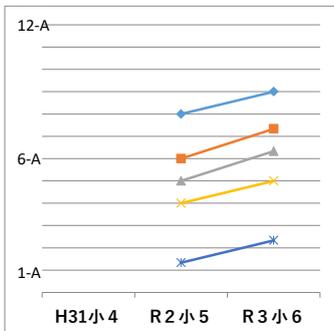
## ■学力の伸びの状況

- ◆ : 最大値 (最も学力が高い児童が属する学力のレベル)
- : 75%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童が属する学力のレベル)
- ▲ : 中央値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童が属する学力のレベル)
- × : 25%値 (学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童が属する学力のレベル)
- \* : 最小値 (最も学力が低い児童が属する学力のレベル)

国語



算数



- 国語では、上位層、中位層、下位層のいずれの層も学力が伸びているものの、中位層の傾きが他の層と比べて緩やかである。
- 算数では、上位層、中位層、下位層のいずれの層も同じ傾きで学力が伸びている。

■カテゴリー別正答率 (%)

+1.1ポイント以上

-1.1ポイント以下

国語	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方、我が国の言語文化	話すこと・聞くこと、書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小6	63.3	73.3	42.5	55.2	65.1	51.3	61.4	57.6	32.0
県 小6	63.5	73.8	41.8	54.6	65.3	50.7	61.4	57.3	29.6
県 小6との比較 (±ポイント)	-0.2	-0.5	0.7	0.6	-0.2	0.6	0.0	0.3	2.4

- 問題形式の「記述式」で2.4ポイント、県の正答率を上回っている。
- 教科の領域等では、「話すこと・聞くこと、書くこと」「読むこと」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

算数	教科の領域等				評価の観点		問題形式		
	数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式
市 小6	63.3	61.6	58.6	49.1	60.7	49.4	60.6	60.8	4.5
県 小6	64.4	61.4	59.2	49.2	61.2	49.7	60.8	61.6	5.0
県 小6との比較 (±ポイント)	-1.1	0.2	-0.6	-0.1	-0.5	-0.3	-0.2	-0.8	-0.5

- 教科の領域等の「数と計算」で1.1ポイント、県の正答率を下回っている。
- 教科の領域等では、「データの活用」の正答率が他の項目と比べて低い。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が「知識・技能」と比べて低い。
- 問題形式では、「記述式」の正答率が他の項目と比べて低い。

■アクティブ・ラーニングの実施、学習方略、非認知能力

	アクティブ・ラーニングの実施	学習方略						非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	学習意欲 (算数)
【令和3年度】市 小6	3.8	3.2	3.4	3.3	3.0	3.6	3.8	2.3	2.9
【令和2年度】市 小5	3.9	3.3	3.4	3.3	3.1	3.6	3.9	3.6	3.8
【令和2年度】市 小5との比較	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-1.3	-0.9
【令和3年度】県 小6	3.9	3.3	3.4	3.4	3.0	3.7	3.9	2.2	3.0
【令和3年度】県 小6との比較	-0.1	-0.1	0.0	-0.1	0.0	-0.1	-0.1	0.1	-0.1

- ◇ 数値は、質問紙調査において児童が5段階（1～5）で回答した結果を集約したものです。
- ◇ 数値が高いほど、よい数値と捉えることができます。
- ◇ 学習方略：児童が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）
  - 柔軟的方略：自分の状況に合わせて学習方略を柔軟に変更していく活動
  - プランニング方略：計画的に学習に取り組む活動
  - 作業方略：ノートに書く、声を出すといった作業を中心に学習を進める活動
  - 人的リソース方略：友人を利用して学習を進める活動
  - 認知的方略：より自分の理解度を深めるような学習活動
  - 努力調整方略：苦手などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動
- ◇ 非認知能力：自分の感情をコントロールして行動する力があるなどの性格的な特徴
  - 自制心：自分の意思で感情や欲望をコントロールすることができる力
  - 学習意欲 (算数)：算数の学習に対する意欲

- 「アクティブ・ラーニングの実施」の数値は昨年度とほぼ同じであるものの、5段階においては比較的高い。
- 学習方略の数値は昨年度とほぼ同じである。「認知的方略」「努力調整方略」の数値は他の項目と比べて高い。
- 非認知能力の「自制心」の数値は1.3ポイント、昨年度を下回っている。「学習意欲 (算数)」の数値も他の項目と比べて低い。